



国際交流事業年報 2024



国立大学法人

浜松医科大学



国際化推進センター
ウェブサイト





ご挨拶

学長特別補佐（国際担当）

国際化推進センター長／医化学講座 教授 才津 浩智

皆さま、こんにちは。学長特別補佐（国際担当）と国際化推進センター長を拝命しております、医化学講座の才津浩智です。浜松医科大学の国際交流事業への皆さまの日頃のご支援に、心より感謝申し上げます。これまでは、国際交流後援会誌として本学の国際交流事業のご報告をさせて頂いておりましたが、今年より形を変えて、本学の国際交流事業の広報誌（年報）としてお届けすることになりました。

国際化推進センターは、近年の急速なグローバル化の流れのなかで、地域医療を含めた様々な局面でグローバル化に対応できる医療人を育成することが必要とされている状況を踏まえて、2019年4月に設立されました。本学の国際教育（学生の海外留学支援、留学生の受け入れや生活支援、学生の英語能力の強化等）、国際情報発信及び国際的学术交流を推進することを目的としていますが、特に、国際教育に力を入れています。本学では、学術協定校との交換留学による海外臨床実習や国際サービ斯拉ーニング、ハワイ大学サマースタッフ等々の様々な海外研修プログラムがありますが、2023年には新たに基礎研究分野における短期海外留学やハワイ大学語学留学を新設しました。更に、2023年からこれまでに、中国、タイ、台湾、ドイツの計4大学と新たな大学間交流協定を結んでいます。また、English caféの開催や海外臨床

実習参加予定の学生を対象とした英語での症例発表のトレーニング、動画教材を用いた医学英語オンライン勉強会も行っており、学生が海外を意識する機会を提供しています。設立直後に始まったコロナ禍の影響で国際交流は一時停滞を余儀なくされておりましたが、2022年から少しずつ再開されました。2023年以降60名を超える学生が海外留学を経験しており、本学の国際交流は再加速しております。また、今野学長のご高配による留学生への奨学金によって、留学生の受入れ人数も40名弱と増加し、本学の研究力の強化においても大きな役割を果たしています。一方で、留学生の居室不足の問題もあり、留学生の受け入れ体制の再検討を進めております。

今年の9月には、コロナ禍を除いて毎年開催されております慶北-浜松合同医学シンポジウムの第21回が浜松で開催されました。国際共同研究は重要なキーワードとなっており、予定されております静岡大学との法人統合も踏まえて、より強力に学术交流を進めていきます。引き続き、本学の国際化に微力ながら貢献できるように全力を尽くしますので、何卒ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。最後に、浜松医科大学基金にご寄附をいただき、国際交流及びグローバル人材育成の支援事業にお力添えいただきたくお願い申し上げます。

国際化推進センターに着任して

国際化推進センター

特任准教授 山下 美保

国際化推進センター開設に伴い配属されて、はや5年目になります。着任当初は図書館の隅からひっそりと始まったのですが、福利棟の一角にセンターが設置されてからは、業務が増えていく毎日です。

父の仕事で小学生の時に米国のピッツバーグに移住したことから、私の国際化が突然始まりました。日本語学校もない環境で、現地生活を満喫？した結果、帰国するころにはまったく漢字が読めなくなっていました。次に海外を訪れたのは大学生になってからのことで、その頃はまだ本学では現在のような活発な在学中の海外留学の制度はなく、旅行での滞在でした。先生方の研究留学の話にあこがれて、将来留学してみようと思い始めたのはこの時期からでした。内分泌科医としてのキャリアを積みながら米国の学会に参加し、学位獲得後にラボを探して面接を受けに行き、ミシガン大学の Molecular & Integrative Physiology に留学しました。研修医以降ずっと本学で過ごしてきた私にとって、ミシガン大学は規模が大きく、研究にとっても恵まれた環境でした。この留学で多様な文化への理解が深まり、人とのコミュニケーションの取り方も変わってきました。苦労がなかったといえば嘘になりますが、幸運なことに親切的なラボ仲間に恵まれ、楽しく過ごすことができました。そんな生活から帰国すると、今度は逆に臨床漬けとなり、大学に在るからには自分の経験や能力を教育に使えないか、と思いはじめていたところにセンター就任のお話をいただきました。

センターは教育推進・情報発信・研究および産学連携支援を3つの柱として、業務を遂行するために教職員が参画するという体制をとっています。大学の教育目標として、国際性の修得も掲げられており、私の主要業務は国際的に活躍できる医療人を育成することになります。その手始めとして、学生が多く国際交流の機会が得られるように環境づくりを行っています。カリキュラムの編成に伴い、いままで1-2年生で必修だった英語の授業

が3-4年生に移動し、医学英語に特化した内容になりました。本学は以前から臨床での短期海外留学の制度がありましたが、選択実習の期間が長くなったことで、より多くの学生が留学できる機会が増え、学術協定を結ぶ大学を増やすことによって留学先の確保に努めています。低学年でも留学の機会を提供できるように、ハワイ大学への語学留学プログラムや基礎配属での海外留学を開始するとともに、カリキュラム外の留学でも単位認定できるようになりました。また、普段から英語に触れる機会が増えるように、English Café や授業外の医学英語学習の授業を開催しています。

教育業務以外にも「国際」とつくと、とりあえず巻き込まれる日々ですが、優秀な職員・派遣の皆様のお陰で、なんとか無事にこなせています。学問や知識だけでなく、人と人との交流が豊かな国際感覚を育てていくと信じ、今後も尽力していきたいと思いますので、どうぞ皆様のご指導・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



NY Rockefeller Center にて父と兄と



ラボメンバーと大学敷地内の Arboretum で(著者は左端)

留学生支援事業

・博士課程大学院留学生への奨学金給付、私費外国人留学生 36 名に奨学金給付(年間総額 3,200 万円)

国名	人数
中国	17 名
ベトナム	5 名
バングラデシュ	9 名
ルワンダ	2 名
インド	1 名
パキスタン	2 名
計	36 名

・学術交流協定校からの交換留学生受入れ支援

慶北大学校医科大学（韓国） 3 名 合計 15 万円

令和 6 年 1 月 9 日～2 月 2 日（4 週間）	臨床実習（第二内科）	5 万円×1 名
令和 6 年 1 月 9 日～2 月 2 日（4 週間）	臨床実習（小児科）	5 万円×1 名
令和 6 年 1 月 9 日～2 月 2 日（4 週間）	臨床実習（第一外科、形成外科）	5 万円×1 名

デュッセルドルフ大学（ドイツ） 2 名 7.5 万円

令和 5 年 9 月 4 日～9 月 19 日（2 週間）	臨床実習（眼科）	2.5 万円×1 名
令和 5 年 8 月 28 日～9 月 22 日（4 週間）	臨床実習（第一内科・第三内科）	5 万円×1 名

・日本語課外補講の開催

日本での生活に必要な日本語課外補講を実施した。留学生の家族や外国人教職員も参加可能とし、日本語の学習だけでなく、日本での生活に必要な知識を学ぶとともに他の外国人留学生等との交流する機会となった。

実施内容 初級・初中級
 実施期間 令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月
 月・火曜日
 実施回数 各コース 全 40 回



■ 国際交流事業

・ English Café の開催（令和 5 年 4 月～令和 6 年 2 月）

本学課外活動団体の HOPE と共催し、学生が留学生との交流を深め、英語でコミュニケーションをとる力を伸ばすことを目的に、「English Café」と称した英語での交流会を実施した。
実施回数：10 回



・ 留学生インタビュー

大学院留学生 3 名と、韓国出身の医学部生 1 名へ英語でインタビューを実施した。今年度は留学生インタビュー開始以来初めて、対面によるインタビューをスタジオで撮影し、国際化推進センターのウェブサイトへ掲載した。

国際化推進センター
ウェブサイト



・ Journal Club への参加（令和 5 年 8 月 30 日、令和 6 年 2 月 27 日）

光創起イノベーション研究拠点が主催する、外国人研究者の指導を受けながら、静岡大学・浜松医科大学の学生が英語の学術論文を読解し発表する「Journal Club」に参加した。

＜本学参加学生＞

（8 月 30 日）医学科 4 年 1 名、医学科 3 年 1 名 （2 月 27 日）医学科 5 年 1 名、医学科 4 年 1 名

・留学生研究報告会（令和5年10月30日）

10月新入留学生のウェルカムイベントの一環として開催した。10月に入学した8名を含む大学院留学生のほか学内教員、研究員などが参加し、研究マインドを高めるイベントになった。

参加者：43名



・外国人留学生実地研修旅行（令和5年11月17日）

外国人留学生が日本の文化、歴史、風土、産業等の見聞を広め、日本をより深く理解してもらうとともに、外国人留学生・教職員相互の理解や親睦を深めることを目的として行った。今回は岐阜県の郡上八幡にて郡上八幡城や伝統的な街並みを散策し、特産品の食品サンプル作り体験や、400年以上の歴史を持ちユネスコ無形文化遺産にも登録されている郡上おどりの実演などを行った。

参加者：外国人留学生・その家族等28名、引率の教職員5名



・国際交流のつどい（令和6年3月1日）

新型コロナウイルス感染症の影響で5年ぶりとなる「国際交流のつどい」を開催した。このイベントでは、日頃よりご支援をいただいている国際交流事業関係者や地域関係者の方々をお招きして外国人留学生・研究者との親睦を深めることを目的とし、約80名が和やかな雰囲気の中で交流を楽しんだ。



■ グローバル人材育成事業

・ 学生海外留学派遣支援

臨床実習 9名 合計 54万円

ワルシャワ医科大学	ポーランド	小児科、脳神経外科、循環器内科	4名
デュッセルドルフ大学	ドイツ	脳神経外科、整形外科、心臓血管外科	3名
ミシガン大学	米国	家庭医療学	1名
ビスベビヤ病院	デンマーク	皮膚科	1名

ハワイサマーワークショップ 3名 合計 9万円

・ 海外留学報告会（令和5年6月29日）

海外留学の成果等の報告及び今後海外留学を希望する学生の参考となる機会の創出を目的とした海外留学報告会を4年ぶりに開催した。

報告者：13名

参加者：学生65名（大学院生含む）、来賓1名、教職員16名



・ 医学英語のグループ学習（令和5年4月～7月）

米国医師免許試験 (USMLE) 対策の学習モジュールを活用した医学英語のグループ学習を毎週1回オンラインで開催した。

実施回数：14回 参加者：7名

Fatty Acid and Triglycerides

- Most lipids degraded to **free fatty acids** in intestine
- Enterocytes convert FAs to **triacylglycerol**
- Chylomicrons** carry through plasma
- TAG degraded back to free fatty acids
 - Lipoprotein lipase**
 - Endothelial surfaces of capillaries
 - Abundant in adipocytes and muscle tissue

These are then packaged into chylomicrons,

・英語での症例発表の実技演習（令和5年11月～令和6年3月）

令和6年度海外臨床実習留学に参加する医学科学生に対して、それぞれ一人2回の英語指導を実施した。

実施回数：16回 参加者：22名



・USMLE Step1 行動科学勉強会（令和5年7月～令和6年3月）

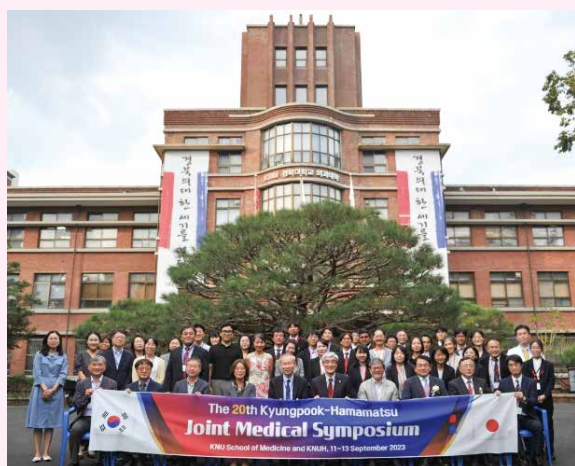
ECFMG Certificate 保持者である本学教員と本学卒業生の心療内科医を外部講師に迎えたグループ学習をオンラインで開催した。

実施回数：15回 参加者：22名（うち学外3名）

■学術交流事業

・「第20回慶北－浜松合同医学シンポジウム」の開催（令和5年9月11日～13日）

韓国大邱市の慶北大学校医科大学（Kyungpook National University School of Medicine）において、「第20回慶北－浜松合同医学シンポジウム」を4年ぶりに再開した。



・タマサート大学チュラポーン国際医学部との学術交流に関する覚書の締結（令和5年11月14日）

タイ王国タマサート大学チュラポーン国際医学部長を始めとする6名の訪問団が来学し、同大国際医学部と本学との間で学術交流覚書を締結した。



・桂林医学院との学術交流協定の締結（令和5年12月5日）

中華人民共和国より桂林医学院 Zhang Zhiyong 党委員会書記を始めとする6名の訪問団が来学し、同大と本学との間で学術交流協定を締結した。



・台北医学大学医学部との学術交流に関する覚書の締結（令和6年2月22日）

台北医学大学医学部（College of Medicine, Taipei Medical University (TMU)）と学術交流に関する覚書を締結するため、本学の今野弘之学長他5名が台湾台北市にある同大を訪問し、調印式に出席した。





学術交流協定校紹介



TAIPEI
MEDICAL UNIVERSITY | COLLEGE OF
MEDICINE

浜松医科大学は、22 大学(11 の国と地域)と大学間交流協定を結んでいます。(2024 年 9 月現在)
今回は台湾の台北医学大学医学部を紹介します。

台北医学大学は、1960 年に設立された台湾のトップクラスの私立大学であり、11 の学部と一般教育センター、そして 6,000 人以上の学生を有し、世界中に 50,000 人以上の卒業生がいます。6 つの附属病院 (TMU Hospital、Taipei Municipal Wanfang Hospital、Shuang Ho Hospital、Taipei Cancer Center、Taipei Neuroscience Institute、Hsin Kuo Min Hospital) があり、合計で 3,000 床の病床を保有し、教職員は 9,000 人以上になります。

医学部は、基礎医学、臨床医学、トランスレーショナルメディシンなど多岐にわたる分野での教育を行っており、学生が幅広い知識を身につけられるよう、最新の教育方法と設備を取り入れています。また、国際的な視野を持った医療人材の育成を重視しており、世界中の大学や研究機関との交流や協力関係を強化しています。



特に、台北医学大学附属病院や関連医療機関との連携により、学生は臨床実習を通じて実際の医療現場での経験を積む機会が豊富にあります。これにより、理論と実践を融合させた教育が実現され、卒業生は高い専門性と倫理観を備えた医療従事者として社会に貢献しています。

さらに、医学部は研究活動にも力を入れており、医療イノベーションや再生医療などの先端研究分野で数多くの成果を挙げています。これらの研究は、世界的な学術雑誌に多数掲載され、国際的にも高い評価を受けています。

台北医学大学医学部は、教育、研究、臨床の三位一体のアプローチを通じて、未来の医療を担うリーダーを育成し続けています。





2023 年、富士山の 5 合目にて

留学生の言葉

大学院医学系研究科光医工学共同専攻 3 年

生体計測工学分野

(パキスタン出身) Qaisar Shahzad

研究、発見、そして感謝の旅：日本での生活

私は Qaisar Shahzad と申します。浜松医科大学のバイオフィotonicsイノベーション寄附講座で研究しています。専門は、甲状腺がんの診断に用いる放射伝達方程式 ("RTE" Radiative Transfer Equation) に基づく拡散光トモグラフィー ("DOT" Diffuse Optical Tomography) による画像再構成アルゴリズムの開発です。日本への留学は、私にとって学問においても私生活においても重要な節目となり、困難を伴いますがそれだけの価値があります。日本での生活は、私の研究活動に特別な側面を加え、私を力強く成長させてくれる環境をもたらしました。

私の研究では、近赤外拡散イメージングを用いた非侵襲的診断法の改善に主眼を置いています。特に甲状腺がんの診断では、先進の DOT 技術が非常に役に立ちます。RTE に基づく高度な画像再構成アルゴリズムを開発することで、これらの診断ツールの精度と有効性を高めることを目指しています。私は医療用画像に深い関心があり、がんの早期発見により患者の回復の見込みを大きく改善したいという強い思いからこの研究に従事しています。

日本は私の研究活動にとって理想的な環境です。日本の技術革新への取り組み、そして先進的な研究施設のおかげで、私は研究を続けるのに必要な技術的サポートを得ることができています。さらに、浜松医科大学の研究コミュニティにおける連携精神は、非常に有益なものです。同僚の研究者や教授陣と関わる中で私の理解は深まり、研究分野に新たな視点を与えてくれます。

日本での生活は、文化的にも価値のある経験です。日本の豊かな文化遺産および日常生活から、近代性と伝統が融合した日本独特の文化に対する理解が深まりました。地元のお祭りに参加したり、穏やかな風景を探索したりなど、日本での生活は私の視野を広げ、人間的に豊かにしてくれる思い出であふれています。



2023 年、郡上八幡城を訪問

2023 年、東京スカイツリー前にて



2023 年、北海道大学で開催された日本光学会年次学術講演会に参加

日本滞在の中で最も重要な出来事の一つが、大学の奨学金を受けたことです。この寛大なご支援により、私は経済的に窮することなく研究に専念することができています。この奨学金は、経済的な不安を解消するだけではなく、一層研究に邁進する意欲を高めてくれるものです。奨学金をいただけるおかげで私は研究に没頭し、目標に向かって有意義な進歩を遂げることができ、深く感謝しています。

今後は医療用画像の研究を続け、がんの早期発見の分野をさらに発展させることに重点を置いていきます。臨床に応用できる革新的な解決策を開発し、最終的には世界中の患者さんに役立てることを目指します。私の目標は、より正確で非侵襲的な（体に傷をつけたり手術をしたりせずに行う）診断ツールを開発し、医療診断の分野に大きな影響を与えることです。

また、研究への取り組みに加え、若手の研究者を指導して学術界に貢献したいと願っています。次世代の科学者を育成することは、継続的な技術革新と進歩のために不可欠であり、私は信念を持って自分の知識や経験をみなさんと共有したいと願っています。

最後に、研究者として日本で過ごす私の人生の旅は、研究成果、文化的な豊かさ、そして人間としての成長という大きな変化をもたらす経験となっています。大学の奨学金によるご支援をいただき、それを基盤として私は研究に集中し専念できています。将来に向かい、私は可能性に胸を高鳴らせ、科学と医療に有意義な貢献をするべく専念します。私の人生の旅路における特別な一章である日本での生活を、研究分野で卓越性を追求し続けていくなか、私はいつも心に思いそこからインスピレーションを得ていくことでしょう。

学術交流協定校等の交換留学生より



氏名 Amina Douaさん

在籍大学 デュッセルドルフ大学（ドイツ）

受入講座 眼科（令和5年9月4日～9月19日）

1. 実習期間中についての報告

私は眼科でインターンシップを行い、15日間のローテーションを経験しました。様々な講義を受け、眼科医の臨床診療や多くの手術を見学しました。先生方は英語でたくさんのことを説明してくれ、とても勉強になりました。

2. 浜松医科大学についての印象

私の印象は、人々がとても礼儀正しく、親切だということです。彼らは情熱を持って、誠実に仕事をしています。



氏名 Yang Jihoonさん

在籍大学 慶北大学校医科大学（韓国）

受入講座 第一外科、形成外科（令和6年1月9日～2月2日）

1. 実習期間中についての報告

私は第一外科で3週間、形成外科で1週間の実習に参加しました。韓国との大きな違いは、縫合や結紮の練習時間が多かったことです。様々な種類の結び方を練習できたので今では上手にできるようになりました。また、先生方が手術手技を教えてくださいましたので解剖学や病気、手術手技についてもよく理解できました。手術に参加し先生の介助をし、佐藤先生が私に結紮の機会をくださいました。手術手技についてプレゼンテーションも行いました。先生がプレゼンの準備を手伝ってくださったおかげでプレゼンも成功しました。形成外科では、外来診療に参加しました。患者さんが入室する前に患者さんについて先生が説明してくださったので日本語が話せなくても、先生が何をしているのか理解することができました。

2. 浜松医科大学についての印象

日本での滞在は本当に楽しかったです。特に魚介類は韓国に比べて本当に安いです。浜松医科大学の附属病院は、あまり混雑していないし、手術室はとても快適で、医師は患者さんに対しても親切でした。また、サッカー場、テニスコート、バドミントンコート、弓道場があるのを見ました。学校の施設もとても立派でした。



氏名 Raissa Jeiranovaさん

在籍大学 アスタナ医科大学（カザフスタン）

受入講座 脳神経外科（令和5年6月1日～6月30日） IFMSA^{*3}留学（^{*3}裏表紙参照）

1. 実習期間中についての報告

浜松医科大学での私の学習は、期待以上のものでした。脳神経外科のスタッフ全員に温かく迎えられ、5年生のグループに配属されました。私たちの一日はモーニングカンファレンスから始まり、すべてを英語で通訳してもらえました。ある日は、さまざまな興味深い形式で先生たちが発表するのを聞き、またある日は、グループでプレゼンを用意し自分たちで発表しました。週に2回手術日があり、手術の介助をする機会もありとてもありがたかったです。常に十分な配慮があり、様々な活動に参加できました。脳神経外科で実習できたことはとても素晴らしい経験になりました。教授をはじめ先生方は最高です！

2. 浜松医科大学についての印象

浜松医科大学には感謝を受けました。全学生が良い教育を受け、成長するための条件が整っています。すべてが組織され便利でここでの学びは喜びでしかありません。ありがとうございました。



氏名 Yara Hussen-Demirさん

在籍大学 デュッセルドルフ大学（ドイツ）

受入講座 第一内科、第三内科（令和5年8月28日～9月22日）

1. 実習期間中についての報告

浜松には4週間滞在し、多くのことを学ぶことができました。特に最初の科（第一内科）では、先生方はいつも私のためにすべてを通訳してくれ、時には英語で授業をしてくれました。日本の患者さんと触れ合う機会が少なかったのは少し残念でした。日本人学生は常にフレンドリーで、平等に接してくれ、特に大石さんはとても良くしてくれました。浜松での貴重な経験にとっても感謝していますし、他の留学生にもぜひ勧めたいと思います。とてもよく組織されていました。ありがとうございました。

2. 浜松医科大学についての印象

少人数制でスケジュールがとてもよく組まれています。何か質問があったり、建物の中で迷ったりしても、スタッフはいつもフレンドリーで親切にしてくれます。大学の場所も浜松市街が一望できるとても美しいところです。ここでの学習はとても素晴らしいものでした。

過去卒業留学生からのお便り



University Teaching Hospital of Kigali の
病理学研究室にて (2024 年 7 月 28 日)

私の名前は Felix MANIRAKIZA です。アフリカのルワンダ出身です。浜松医科大学での素晴らしい生活を紹介します。2019 年 10 月 1 日、私は医学博士号を取得するため日本に降り立ちました。当初私の知る日本語は、唯一「サヨナラ!」でした。幸いなことに、日本は留学生が平和で生活しやすい国だと思いました。これは、研究と教育で成功するという私の夢を実現するために、いつも積極的に支援してくださった日本の皆様のご尽力によるものです。特に浜松医科大学では、出会ったすべての人が私の目標達成のため力を貸してくださいました。私が日常生活に溶け込めたのは、国際化推進センターのスタッフや研究者の方々、そして腫瘍病理学講座の同僚のおかげです。特に 1 年目には、私のアテンド担当の学生に近くのお店やレクリエーション施設を探す等、生活全般をサポートしていただきました。浜松医科大学の研究室は、卓越した技術を有し、研究プロセス全体が計画され整えられていました。留学中、私は国際的な専門家会議に出席し、プレゼンテーションを行うことができました。また、大学のご助力で留学生が日本の文化を体験するために日本の様々な観光地を訪問することができました。またバラエティー豊かな日本食は称賛に値します!あらゆる面において、日本の生活は最高でした。

留学生生活は順調で、私はわずか 4 年で博士号を取得することができました!その後ルワンダの人々に自分の経験と習得した技術的・科学的知識を伝えるため、私は母国に戻りました。帰国後、私は国内最大のルワンダ大学で、医薬学

Senior Lecturer (University of Rwanda)
Felix Manirakiza, MD, PhD

浜松医科大学での留学生生活を終え、
ルワンダで医療の専門家として成功

部の上級講師として着任しました。この大学で、私は学部と大学院の様々な科目を教えています。また、ルワンダ大学の附属病院の一つである University Teaching Hospital of Kigali の顧問病理医として、がんや感染症などさまざまな病気の診断にも携わっています。また、分子病理学を中心とした研究にも携わっています。2024 年 6 月には、在ルワンダ日本大使館がルワンダ大学の医学部・保健科学部に図書を寄贈するイベントに参加しました。このイベントでは、日本での生活や留学の経験を多くの人に伝えることができ、イベントの最後には、日本への留学についてもっと情報を得たいという多くの学生から声をかけられました。私は浜松医科大学と母国を結ぶ大使のように感じています。

最後に、念願の学業での成功を収めた私の帰りを、家族が喜んで熱烈に迎えてくれたことをお伝えし締めくくりたいと思います。

この場をお借りし、私の人生の記念すべき期間に私を支え、励ましてくれた日本の皆様と私の家族に改めて感謝申し上げます。



図書を寄贈するイベント "CMHS-Rwanda" にて
日本での生活、経験を伝えた (2024 年 6 月)

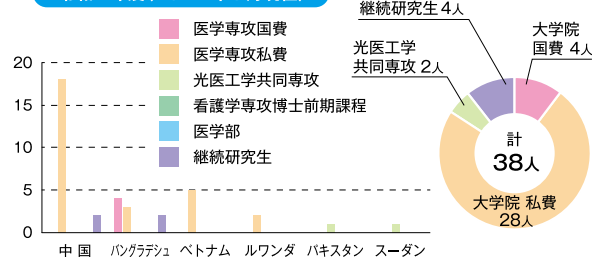
国際交流概況

外国人留学生数

令和4年度（2022年5月現在）

国 名	大学院医学系研究科					医学部	大学院	総 計
	医学専攻		光医工学	看護学専攻	合計	医学科	継続 研究生	
	国 費	私 費	共同専攻	博士前期課程				
中 国		18			18		2	20
バングラデシュ	4	3			7		2	9
ベトナム		5			5			5
ルワンダ		2			2			2
パキスタン			1		1			1
スーダン			1		1			1
合 計	4	28	2	0	34	0	4	38

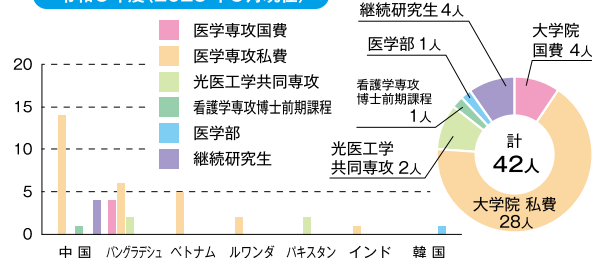
令和4年度（2022年5月現在）



令和5年度（2023年5月現在）

国 名	大学院医学系研究科					医学部 医学科	大学院 継続 研究生	総 計
	医学専攻		光医工学 共同専攻	看護学専攻 博士前期課程	合計			
	国 費	私 費						
中国		14		1	15		4	19
バングラデシュ	4	6	2		12			12
ベトナム		5			5			5
ルワンダ		2			2			2
パキスタン			2		2			2
インド		1			1			1
韓 国						1		1
合 計	4	28	4	1	37	1	4	42

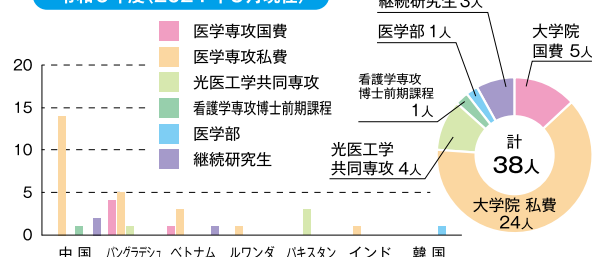
令和5年度（2023年5月現在）



令和6年度（2024年5月現在）

国 名	大学院医学系研究科					医学部	大学院	総 計
	医学専攻		光医工学	看護学専攻	合計	医学科	継続 研究生	
	国 費	私 費	共同専攻	博士前期課程				
中国		14		1	15		2	17
バングラデシュ	4	5	1		10			10
ベトナム	1	3			4		1	5
ルワンダ		1			1			1
パキスタン			3		3			3
インド		1			1			1
韓国					0	1		1
合 計	5	24	4	1	34	1	3	38

令和6年度（2024年5月現在）



短期留学生（受入れ）

国・地域名	R4 年度	R5 年度	R6 年度
オーストラリア			
オーストリア		1	
中国			
デンマーク		1	
エストニア			1
フィンランド		1	
ドイツ	1	2	4
ギリシャ		1	
ハンガリー			2
ケニア			
パキスタン		1	
ポーランド		1	5
韓国	3		3
ロシア			
スロベニア			
スペイン		1	
スイス			1
タイ			3
イギリス			
イタリア			1
アメリカ			
台湾			1
合計	4	9	21

R6.8.27 時点での受け入れ予定人数

短期留学生（送出し）

国・地域名	R4 年度	R5 年度	R6 年度
オーストラリア			1
オーストリア			1
中国			2
デンマーク		1	
エストニア			
フィンランド			1
ドイツ		3	7
ギリシャ			1
ハンガリー			
ケニア			6
パキスタン			
ポーランド		4	8
韓国			5
ロシア			
スロベニア			1
スペイン			
スイス			
タイ			
イギリス ^{*1}		1	1
イタリア			2
アメリカ ^{*2}		4	20
台湾		1	1
合計	0	14	57

^{*1} イギリス留学生は、医学教育振興財団からの支援

^{*2} サマーワークショップも含む

(注) サマーワークショップは実施年度、それ以外の留学は単位認定した年度で計上

^{*3} 【IFMSA について】

IFMSA (International Federation of Medical Students' Associations) (国際医学生連盟) は、WHO (世界保健機関) や WMA (世界医師会) によって正式に認められた医学生による非営利・非政治の国際学生 NGO です。「すべての医学生がグローバルヘルスのために団結し、将来の医療において地域、そして世界で活躍できるリーダーを育成する」ことを Vision として活動しています。この IFMSA の臨床交換留学プログラムにより、日本の医学生が海外の病院で臨床研修を行うとともに、現地の医学生との交流を通じて相互理解を深めています。また、留学生を受け入れて世界とつながる機会を持つことができます。